

食と石見神楽 DINNER & IWAMI KAGURA | 演 目

4月 4日 | 八十神 | 久城社中

八雲立つ出雲の神は誰やらん
大国主とは知るや知らずや

因幡国に住む八上姫に求婚する八十神たち。八上姫が大国主命を選び八十神たちを拒んだために、八十神たちは継兄弟である大国主命を殺害しようと企てます。赤猪退治とごまかし、石を焼いて受け止めさせたり、木の股に挟み込んで苦しめたり、あの手この手で命を狙いますが、難を逃れた大国主命によって退治されてしまいます。

6月 6日 | 頼政、大蛇 | 久々茂社中

ほととぎす名をも雲井に上ぐるかな
弓張り月のいるにまかせて

頼政

平安時代末期、毎夜丑の刻に現れる鶴に近衛天皇はひどくうなされます。勅命を受けた弓の名手源頼政は家来の猪早太と共に鶴退治に向かいます。

神の代を思い出雲の宮柱 太敷きたてて敷島の
道店々と踏み分けておぎさの里にと急ぐなり

大蛇

須佐之男命が出雲の国にさしかかると、老夫婦が嘆き悲しんでいました。8人の娘たちは毎年大蛇にとられ最後の1人も取られる運命にあるといひます。須佐之男命は毒酒を作らせ、大蛇が酔ったところを退治します。

8月 1日 | 柴舞、黒塚 | 久々茂社中

榊葉を折り取り手に持ち差し上げる
四方の神も花とこそすれ

柴舞

別名「真榊」ともいいます。儀式舞で烏帽子、狩衣姿で鈴、榊をもって東、西、南、北、中央を祓い清める神楽です。

むつの国那須野が原の黒塚に
鬼住むよしをきくがまことか

黒塚

那須野ヶ原を通りかかった法印と剛力は、一夜の宿を借りますが、その女住人(悪狐)に化かされて法印は逃げ去り、剛力は食われてしまいます。それを知った弓の名人、三浦介、上総介により悪狐は退治されます。

9月 5日 | 十羅、岩戸 | 久々茂社中

十羅利 鏡の島は高くとも
ただ寄せ来るは沖つ白波

十羅

須佐之男命の末娘、日の御碕大明神、十羅利女は異国より海を渡り攻めてきた悪鬼彦羽根と船の上で戦い退治します。

月も日も空に光しあらざれば何處を
神の宿とたづねん

岩戸

須佐之男命の乱暴に困り果てた天照大御神は、天の岩戸にお隠れになります。すると、世の中はすべて闇夜となり多くの過が起きました。そこで、神々が集まり、はかりごとをもって大御を迎え出します。すると世の中は明るさと平和が戻りました。

10月 3日 | 道返し、熊襲 | 久々茂社中

峰は八つ谷は九つ音にきく
鬼の住むてふあららぎの里

道返し

鹿島神宮の祭神武甕槌命が、世界各地を荒し廻った大悪鬼を退治する神楽です。言葉の戦いから立ち会となりますが、石見神楽では珍しく鬼が降参する物語です。

ちちのみの父の御言をかしこみて
遙けき国に出で立たすかも

熊襲

日本童男は16歳のとき、父の景行天皇に九州の熊襲を平定するよう命じられます。日本童男は女性のように身を変え、熊襲建の宴に紛れ込み、酒を飲んで上機嫌になった熊襲健に斬りかかり退治します。

11月 7日 | 塩祓い、国受 | 久城社中

天ツ神国ツ社をいわいてぞ
豊芦原の国は治まる

国受

高天原から派遣された経津主の神、天の取船の神、大国主命に出雲の国を譲る様に談判します。大国主命は、自分の2人の息子の承諾を得るように言い、第一の王子「事代主命」は承諾しますが、第二の王子「建御名方命」は承諾せず力くらべとなり、敗れて濃の諏訪まで逃げ、ついに降参して命請いをし葦原中国(地上=古代日本)を譲ります。

12月 5日 | 御殿神楽、紅葉狩 | 久々茂社中

ちはやふる玉の御すだれ巻き上げて
神楽の声をきくぞうれしき

御殿神楽

儀式舞の1つで、本来は祭典の中で神事として宮司の祝詞奏上の後には舞われる神楽です。

嵐吹く三室の山のもみじ葉は
立田の川のにしきなりけり

紅葉狩

平維持は、家来とともに狩の旅に出ますが途中で道に迷い里人と出会います。里人によると、これは信州戸隠山といい紅葉の名所だが山奥には鬼女が住み人を苦しめていると言います。これを聞いた維持は鬼女退治に向かいますが、美女に扮した鬼女たちの策にはまり命を落としかけますが、信仰する八幡大菩薩の使に命を助けられ神剣を授かり鬼女たちを退治します。



MASCOS
BAR & DINING